

最適化 1 追加レポート

坪井正太郎 (101830245)

2020 年 12 月 12 日

1 期末試験

(1) 2 段階シンプレックス法

1.

$$x_B = A^{-1}b, x_N = 0$$

2.

(B) の最適解を目的関数に代入した値が、

(i) 0 のとき → その時の基底解が、元の問題 (A) の実行可能解となる。

(ii) 0 でないとき → (A) に実行可能解が存在しない。

(2) 双対性

1.

目的関数 : $12w_1 + 20w_2 \rightarrow \text{最大}$

制約条件 : $w_1 + w_2 \leq -2$

$2w_1 + 4w_2 \leq -1$

$2w_2 \leq -1$

2.

$c^T x^* \geq b^T w$ となるような (D) の実行可能解 w のうち、最大なのは w^* であり、 w^* が (D) の最適解である。同時に、 $c^T x \geq b^T w^*$ となるような (P) の実行可能解 x のうち、最小なのは x^* であり、 x^* が (P) の最適解である。

(3) 最適化 1

2

最適化の授業の中で、塗り分け問題の定式化について最も興味を持った。このような地図の塗り分け問題があることは、知っていたが、愚直解を求める以外の方法を知らなかった。整数問題として定式化する方法があるという方法、0-1 変数の導入が知れた点が良かった。

3 期末レポート

3.1 シンプレックス法

(a)

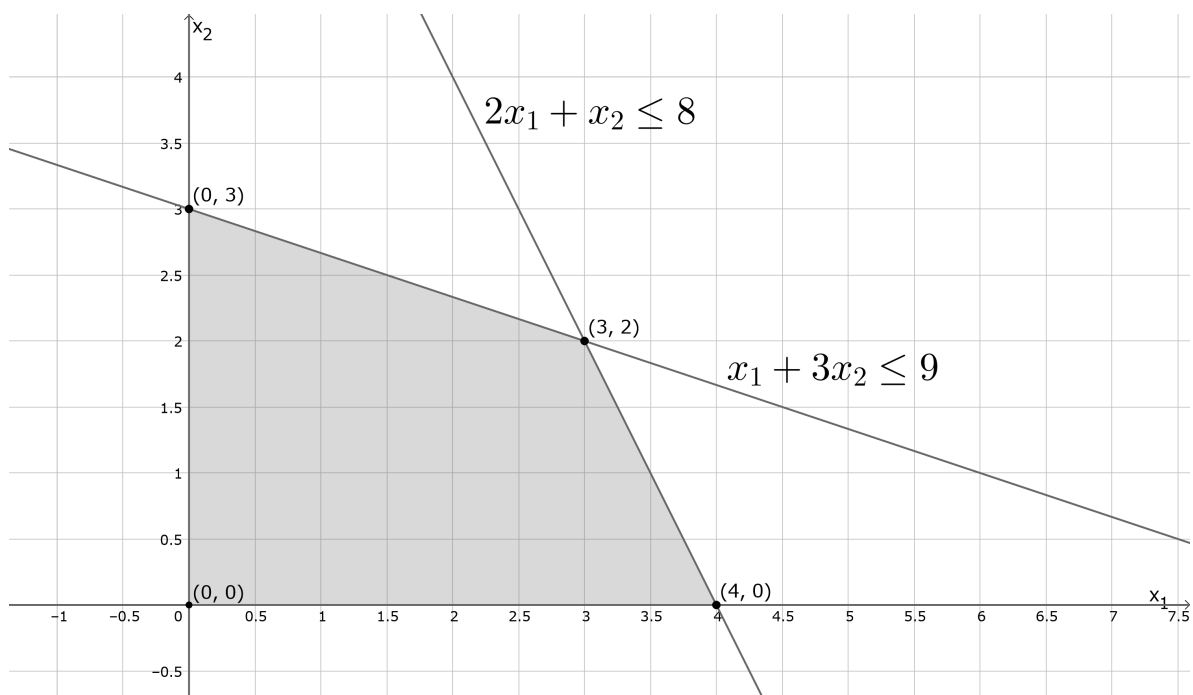


図 1 実行可能領域

(b)

目的関数 : $-2x_1 - 3x_2 \rightarrow \text{最大}$

制約条件 : $2x_1 + x_2 + x_3 = 8$

$x_1 + 3x_2 + x_4 = 9$

$x_1, x_2, x_3, x_4 \geq 0$

(c)

まず、初期条件は次のようになる。

$$B = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}, N = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 3 \end{pmatrix}, c_B = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}, c_N = \begin{pmatrix} -2 \\ -3 \end{pmatrix}$$

1. (a)

$$\pi = (\mathbf{B}^T)^{-1} \mathbf{c}_B = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

(b)

$$\mathbf{c}_N - \mathbf{N}^T \pi = \begin{pmatrix} -2 \\ -3 \end{pmatrix}$$

(c)

$$\mathbf{y} = \mathbf{B}^{-1} \mathbf{a}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix}, \bar{\mathbf{b}} = \begin{pmatrix} 8 \\ 9 \end{pmatrix}$$

(d)

$$\theta = 3$$

(e)

$$\mathbf{x}_N = \begin{pmatrix} 0 \\ 3 \end{pmatrix}, \mathbf{x}_B = \begin{pmatrix} 5 \\ 0 \end{pmatrix} \text{ と更新されるので、 } \mathbf{x} = (0 \quad 2 \quad 5 \quad 0)^T$$

2. (a)

$$\pi = \begin{pmatrix} 0 \\ -1 \end{pmatrix}$$

(b)

$$\mathbf{c}_N - \mathbf{N}^T \pi = \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

(c)

$$\mathbf{y} = \begin{pmatrix} \frac{1}{3} \\ \frac{3}{5} \\ \frac{3}{3} \end{pmatrix}, \bar{\mathbf{b}} = \begin{pmatrix} 3 \\ 5 \end{pmatrix}$$

(d)

$$\theta = 3$$

(e)

$$\mathbf{x}_N = \begin{pmatrix} 3 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{x}_B = \begin{pmatrix} 2 \\ 0 \end{pmatrix} \text{ と更新されるので、 } \mathbf{x} = (3 \quad 2 \quad 0 \quad 0)^T$$

3. (a)

$$\pi = (\mathbf{B}^T)^{-1} \mathbf{c}_B = \begin{pmatrix} -\frac{3}{5} \\ -\frac{4}{5} \end{pmatrix}$$

(b)

$$\mathbf{c}_N - \mathbf{N}^T \pi = \begin{pmatrix} \frac{3}{5} \\ \frac{3}{5} \\ \frac{4}{5} \end{pmatrix} \text{ となる。}$$

この時点で相対コスト係数がどちらも正なので、最適解は $\mathbf{x} = (3 \quad 2 \quad 0 \quad 0)^T$

3.2 グラフ彩色問題

色全体の集合を、 $C = \{c_1, c_2, c_3, c_4\}$ とする。

制約条件を

$$\forall i \in V, p_{ic_1} + p_{ic_2} + p_{ic_3} + p_{ic_4} \geq 1$$

$$\forall (i, j) \in E, (p_{ic_1} + p_{jc_1}), (p_{ic_2} + p_{jc_2}), (p_{ic_3} + p_{jc_3}), (p_{ic_4} + p_{jc_4}) \leq 1$$

となり、目的関数は $x = p_{ic_1}p_{ic_2} + p_{ic_1}p_{ic_3} + p_{ic_1}p_{ic_4} + p_{ic_2}p_{ic_3} + p_{ic_2}p_{ic_4} + p_{ic_3}p_{ic_4}$ と
して、

$$\left(\sum_{i=1}^{|V|} \frac{x}{x} \right) \rightarrow \text{最大}$$

となる。ただし、 $x = 0$ のとき $\frac{x}{x} = 0$ とする。